

<総括>

出題数 現代文2題

試験時間 80分

大問一 本文の分量が増したが、読みやすい。客観問題がなくなり、すべて論述になり記述量が大幅に増えた。

大問二 本文の分量は減少。すべて論述だが、記述量は減少。

新課程を踏まえた出題 (大問二 問5)

本文の具体例を参考に、自分で適切な具体例を挙げて説明する問題が出題された。思考力・判断力・表現力など、文章読解に主体的に取り組む力を測る問題である。

<本文分析>

大問番号	一	二
出典 (作者)	『聞くこと、話すこと。人が本当のことを口にするとき』大和書房(尹雄大)	「資本主義にとっての有限性と所有の問題」 『所有とは何か——ヒト・社会・資本主義の根源』中央公論新社所収(山下範久)
頻出度合 ・的中等	入試でしばしば見かける筆者である	入試での出題は稀である
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約3940字→約4500字	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約3000字→約2600字
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
一	評論	問1	論述	標準	「!」「?」の表記に留意して考える。 「どちらも」の中身を書き、「音のズレ」を説明する。 設問の要求を踏まえ、解答範囲を確定する。 問3と同様、解答範囲の確定を慎重におこなう。 傍線部全体を説明する。「繊細さ」の解釈が鍵。 本文全体の論旨を踏まえ、傍線部を説明する。
		問2	論述	標準	
		問3	論述	標準	
		問4	論述	標準	
		問5	論述	やや難	
		問6	論述	やや難	
二	評論	問1	論述	標準	解答箇所は決まるが、まとめづらい。 理由説明問題になっていることに留意する。 傍線部前後の内容を踏まえる。 傍線部に即して丁寧に説明する。 新課程を意識した設問。論旨を踏まえ事例を考える。 近代法に即して説明する。
		問2	論述	やや難	
		問3	論述	標準	
		問4	論述	標準	
		問5	論述	難	
		問6	論述	標準	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

日頃から、色々な文章になじんでおく。
書き取りは出ないが、読解の基礎なので対策を講じておこう。
長大な論述に慣れておく。
日頃から、読んだ文章を自分に関わりあるものとして理解を深めるようにしよう。